

インターネットと人権

パソコン・携帯電話の

画面の向こうは **人** とつながっています

インターネットは、さまざまな情報を瞬時に送信・受信できる便利な手段。コミュニケーションの輪が広がる一方で、インターネットを悪用した行為が増えています。気軽に情報発信できるため、中には悪意をもって、うそや差別的な発言を広め、重大な人権侵害を行う人もいます。例えば悪気がなかったり、軽い気持ちだとしても傷つく人がいることを忘れてはいけません。現代に欠かせない身近なものだからこそ、「インターネットと人権」について考えてみましょう。



個人情報の無断掲示

私的なホームページでも友人ばかりが見るとは限りません。インターネットは誰でも見られるもの。気軽に流してしまった個人情報がもとで、犯罪に巻き込まれる可能性さえあります。個人情報を掲載することはとても危険なことです。

他人への中傷や侮辱

インターネットは実際に暮らす社会と同じです。虚偽はもちろん、真実であったとしても心ない言葉や悪意のある表現は、見る人を不快にさせます。いつもモラルをもって発言するよう心掛けましょう。

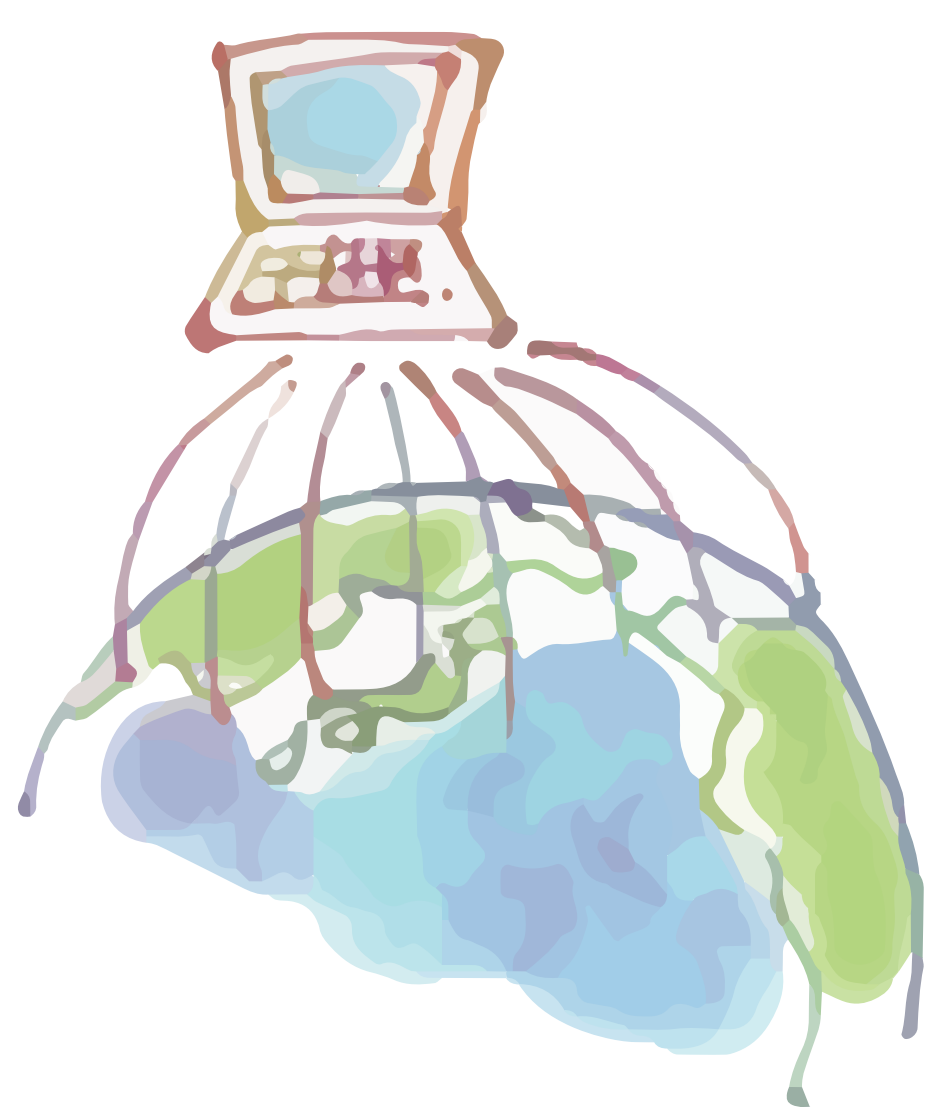
無責任なうわさ

おもしろ半分で流したうわさが広がって、取り返しのつかないことになることも。インターネットは見の人を選べません。確かでない情報の掲載は避けましょう。



差別的な書込み

軽い気持ちで書いたものでも、インターネットは多くの人が見ています。言葉は使い方によっては、人の心を傷つけますし、一度広まった情報は簡単には取り消せません。書き込む時は、相手の立場に立って考えましょう。



インターネットは実際に暮らす社会と同じです。

世界中の人と交流したり、知りたい情報をすぐに知ることができるインターネットは私たちの世界を広げてくれる便利な道具。正しく安全に利用するためにも、危険性を理解し、実際に暮らす社会と同じようにモラルを守ることが大切です。

守ろう!インターネットでのモラル

自らの発言に責任を持つ

人を不快にさせるよう言動をしない

情報をうのみにせず正しい情報を自ら選び取る

こうしたモラルに基づく当たり前のふるまいで、インターネット上での悪質な人権侵害を確実に減らすことができます。